

生産管理論		講義	非常勤講師 井田 憲一
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目 経営・経済コースの専門選 択科目	科目ナンバリング	23202207

1. 授業のねらい・概要

生産、営業、販売、サービスなどの分野に必要なマネジメント手法（管理手法）を対象とし、「生産のグローバル化」に対応するマネジメント・システムを構築する考え方と具体的方法を講義する。学習の到達目標は、品質（Q）、費用（C）、納期（D）を基準とし、マネジメントに必要な考え方と管理手法を理解し、代表的な企業のマネジメントの特徴を理解することである。

企業活動のねらいは、顧客のニーズ（品質、費用、納期等）を把握し、ニーズにあった製品やサービスをタイムリーに提供し、顧客を満足させることにある。多種・多様な顧客のニーズに対応するには、コンピュータ利用が不可欠である。QCD をマネジメントの基準とし、管理システムを設計する「基本的な考え方」と「具体的なマネジメント手法」を概説する。

2. 授業の進め方

PowerPoint を用いて講義形式で進める。企業での具体例を挙げながら管理手法を説明する。管理手法のねらいと考え方を重視した説明を行う。

3. 授業計画

1. 会社のしくみ、モノづくりのしくみ	9. 工程管理
2. 経営と生産と生産価値	10. 資材管理
3. 生産管理の体系	11. 設備管理
4. 生産のしくみ	12. 労務管理
5. 品質管理（1）品質管理と TQM と ISO9000s	13. 作業管理
6. 品質管理（2）統計的品質管理	14. 生産のグローバル化と情報のコンピュータ化
7. 中間まとめ	15. まとめ
8. 原価管理	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画で示した毎回のテーマの内容に対する予習・復習に1時間程度。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（or レポート提出）の後、解答などを説明または採点后に答案を返却する。

6. 授業における学修の到達目標

QCD を基準とし、マネジメントに必要な考え方と管理手法を理解し、代表的な企業のマネジメントの特徴を理解させることを目標にする。

7. 成績評価の方法・基準

成績は、試験成績（40%）、レポートまたは中間テスト内容（40%）、授業への取り組み姿勢（20%）の総合評価とする。レポート等の提出遅れは減点する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：泉英明、『わかりやすい生産管理 基礎が身に付く 15 講義』、日刊工業新聞社、2015 年。

ISBN978-4-526-07351-9。

必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考文献：田村隆善 他、『新版生産管理システム』，朝倉書店，2012 年。

9. 受講上の留意事項

毎回出席をとる。出席用紙に自分の名前を書く。サインで本人を確認する。品質，費用，納期，すなわち QCD のマネジメントに関心ある学生を対象とする。理論と共に実践を主体とする。質問等は，授業中，あるいは授業終了後に。office hour は特に設定しない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。